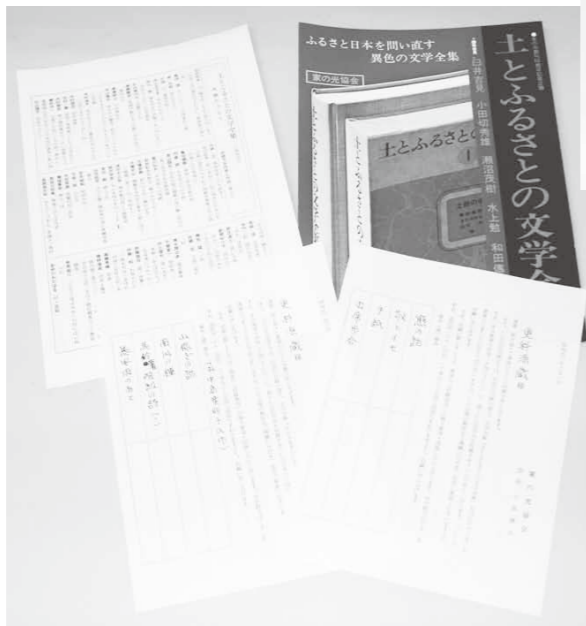




更科源蔵(さらしなげんぞう)  
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。  
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



出版元から送られてきた資料(上)  
更科と葉那子の詩を掲載する許諾願い(下)



## 『土とふるさとの文学全集-14巻』

市民と言われ都会に住む人たちの多くは農山漁村の出身です。その人たちに、土着の思想と帰郷を願って編さんされた『土とふるさとの文学全集』があります。農民文学を網羅し、全15巻からなるこの全集は、1976(昭和51)年から1977(昭和52)年に編さんされました。その第14巻は「大地にうたう」と題した詩のアンソロジー(選集)です。

この巻には、更科の詩「敬とイモ」「熊の話」「出席歩合」「手紙」の4点と、更科の妻・中島葉那子の詩「暴風雨のあと」「出稼ぎの話」「南瓜の種」の3点が収められています。作品は、更科夫婦が弟子屈市街で印刷屋や熊牛原野で牛飼いをしていたころの昭和初期に詩作したものです。

この巻の付録の「月報」に更科は、「書くということ」という一文を寄せています。そこには、

開拓に押しつぶされるように亡くなった家内中島葉那子は、私よりも作品はすぐれていた。思想的にも尖鋭であったが、長女が生まれると同時にものを書かなくなり、こっそりかくれるようにして何かを書いている私をなじるように「そんなこともう少し余裕ができてからでもいいでしょう」と批評するようになった。それは私が特高警察のために何度か連れて行かれるので、子供を育てるといっ

ちなみにこの巻には、1932(昭和7)年、父母と姉と共に美留和原野に入地し、後に詩人として活躍した風山瑕生(本名・安田博)の「讃歌・母の歌」「号泣の前」「仮泊の夜」やさやかな政治論の4点の詩が収録されています。安田博は、弟子屈尋常小学校高等科を経て旭川師範学校講習科へ進み、教員資格を得て母校の国民学校に赴任しています。

の本能から、開拓生活の不安がそう言わしめたようである。(略)

葉那子の書く詩には、貧しいながらも男が夢を追う姿に女が見る現実、自然や社会制度が日々の暮らしを襲う不条理を直線的な表現で綴る作品があります。更科は文の最後に

せめて父が死の直前まで土に生きたように、下手くそな詩を堂々と書きつづけた。もう誰も一銭にもならない詩を書いて叱る人がいなくなったから。



## 図書館だより

中央2丁目4番1号  
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

### ☆古雑誌をお譲りします

保存期間が過ぎた雑誌を提供します。図書館では、定期購読している雑誌の保存期間を3年間としています。3年を経過したものは処分となりますので、今回は2010(平成22)年6月号までの雑誌が対象です。先着順とし、なくなり次第終了とします。

※お一人3冊までを目安にお選びください。

※取り置きのご希望にはお応えできませんので、ご了承ください。

▼提供期間/7月2日(火)から対象の雑誌がなくなるまで。

▼場所/図書館内・特集展示コーナー

### ☆図書館からのお願い

図書館の本の貸出期間は2週間までとなっておりますが、期限を過ぎてても返却されない方が増えています。予約が入っていない場合、貸出期間を一度延長することができますので、図書館へご連絡ください。次に予約が入っている場合は延長できませんので、ご注意ください。

## 新刊案内

- 「93番目のキミ」 山田 悠介/著
  - 「見上げた空の色 ウエザリポート」 宇江佐真理/著
  - 「悪魔の取引」 アンドレアス・ロイズ/著
  - 「おばあちゃんのオシャレ採集」 堀川 波/著
  - 「きちんと可愛い女の子服」 荒木 由紀/著
  - 「natural 盆栽」 加藤 文子/著
  - 「負けを生かす技術」 為末 大/著
  - 「葬儀・法事のあいさつ実例事典」 生活ネットワーク研究会/著
  - 「ランドセルは海を越えて」 堀内タケシ/著
  - 「からすのおかしやさん」 かこさとし/著
- たくさんのお楽しみが待っています！

## ランチのアッコちゃん

楠木 麻子/著  
屈託を抱えるOLの三智子。彼女のランチタイムは1週間、有能な上司「アッコ女史」の指令のもとに置かれた。表題作のほか、前向きで軽妙洒落、料理の描写でヨダレが出そうになる、読んでおいしい短編集。

## おすすめの新刊

## 自然ふれあい行事 参加者募集中!

自然界でもいろいろな“事件”が起きています。外来生物の侵入もその一つ。でも、持ち込んだのは人間です。ただ駆除するだけでなく、いきさつもおきましょう。

- 〈川湯から外来種をなくそう〉
- ▶期日/7月7日(日)
- ▶集合・解散場所/当センター
- ▶参加費/300円(保険代)
- ▶定員/15人(先着順)

※申し込み・問い合わせは電話で受け付けます。ホームページ([http://www6.marimo.or.jp/k\\_emc/](http://www6.marimo.or.jp/k_emc/))もご覧ください。



外来植物駆除の様子

## EMC通信

～川湯の森から～

川湯EMCは、さまざまな方に自然の中で楽しんでほしいと願っています。そんな思いが少しずつカタチになっている



ベビーベッドや畳で小さなお子さんも安心  
おもちゃで遊んだりしててください。

## できるだけ多くの方が利用しやすい施設に

公園の地形を表している立体模型を指でなぞったり、ヒグマやエゾシカの剥製に触ったりしてみてください。また、アウトドア用の椅子1台をご用意しています。つじけ原自然探勝路はイソツツジテラスまでバリアフリー整備がされていますので、足の不自由な方でも森林浴をお楽しみいただけます。

◆外国人の方には  
スタッフが手作りの英語版のホームページや館内パンフレットをご用意しています。常設展示は日本語と英語を並記し、映像は英語、韓国語、中国語に対応。英語が苦手なスタッフは、精いっぱいポディランゲージを駆使します。

このほか、おもつ交換台や手すりのついた多目的トイレを設置。休憩空間としても、お気軽にご利用ください。もれなくスタッフの笑顔も付いてきます!

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100  
7月は8:00~17:00開館(無休)